

じゅこう

孟蘭盆会・門信徒総追悼法要 厳修

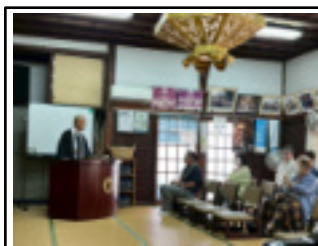
八月十五日、孟蘭盆会のご法要をお勤め致しました。浄土真宗ではお盆の法要のことを歡喜会とも呼び習わしています。大切な方を亡くし、ご先祖を偲んでいく法要なのに、どうして歡び（喜び）の法要なのでしょう。うか。それは、ご先祖さまへの追善だけにとどまらず、別れていった大切な方から私自身が仏縁に遇わせていただいた有難さ、尊さを味わう法要だから歡喜会と表現されるのです。

さて、ご講師には毎年奈良県吉野より花岡静人先生をお迎えしております。ご讃題には「生死の苦海ほとりなし、ひさしくしづめるわれらをば、弥陀弘誓のふねのみぞ、のせてかならずわたしける」というご和讃をいただきました。「生死」という言葉は普通に読むと「せいし」ですが、仏教では「しょうじ」と読んでいます。仏教読みの「生死」の意味は流転輪廻を表しており、本当の私の姿は、迷いのいのちを繰り返し、罪を作り、悲しみを積み重ねており、悩み・苦しみの中で生きていることを知らしめる言葉なのです。

自分のいのちでありながら、本当の姿はなかなか分からないものです。自分の誕生日のことは知っていますか？もちろんすぐに答えられると思いますが、実は自分の誕生日は親から聞いて知っているだけなのです。自分のことなのに、生まれた時のことなど本当はわからないのです。ご和讃には苦しみの海の真ん中で、沈んだままの生き方をしている私。それはつまり、海の中にいるということすら分かっていないということだったのです。

曇鸞大師が『往生論註』で「蟬・蜩・秋を識らず、伊蟲豈に朱陽の節を知らんや」と言われています。蟬は夏になると地上に出てきて成虫になります。けれども約一週間のいのち。夏に生まれて夏の中で亡くなっています。そんな蟬は夏以外に春や秋があることを知りません。そればかりか、本当の夏の意味を知ることができないのです。他の季節を知らなければ今が夏であるということも、夏は他の季節に比べて暑いということも知ることはできません。それでも、本当の夏の意味を知ることにはできなくても、蟬は今年も精一杯鳴いています。

仏さまの世界を知らない故に、苦しみの海に沈んでいる私は、迷っていることにすら気づいていません。そんなわたしを「のせてかならずわたしける」。心配するな、大丈夫、我に任せよと既に届いております。



第77号
(通算417号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

・9月17日(水)
10時～11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・9月23日(火)
19時～20時半
・参加費1000円

大行とは、すなわち

無碍光如来の

名を称するなり。

親鸞聖人『教行信証・行巻』



御文章に聞く(第70回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

一切女人章(五帖第十七通)
それ、一切の女人の身は・後生を大事におもい・仏法をとうとくおもふ心あらば、なにのようもなく・阿弥陀如来をふかくたのみまいらせて、もろもろの雑行をふりすてて・一心に後生を・御たすけ候えと・ひとのまん女人は、かならず極楽に往生すべきこと・さらに疑あるべからず、かようにおもいとてののちは・ひたすら阿弥陀如来の・やすく御たすけにあずかるべきことの、ありがたさ・またとうとさよとふかく信じて、ねてもさめても・南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏と・申すべきばかりなり、これを信心とりたる・念仏者とは申すものなり、
あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。
この章の最期はお念仏のお話しです。真宗のお念仏は、他方信心のお念仏といわれます。それは、阿弥陀仏のご本願を聞かせていただく者は、必ず浄土に生まれる身とならせていただきます。その自覚のもとに「南無阿弥陀仏」と阿弥陀仏の名を称えているのがお念仏です。別名を「南無阿弥陀仏」と阿弥陀仏の不安はありませぬ。その意味では安心のお念仏といえます。しかしながら、安心の念仏と聞くと、安易な気持ちのお念仏と勘違いしてしまうかもしれません。他方信心の念仏とは、自らの人生にあって、阿弥陀仏が最も大切なお方と知らされた者が、阿弥陀仏を中心にして生きようとする、努力の姿ともいえます。私たちはお念仏申していますが、はたして阿弥陀仏を一番と敬い、拜んでいるでしょうか。「安心」とは、充足と緊張を意味していると聞かせていただきました。

仏教語辞典



鎌倉時代の仏師。運慶と並び称される。阿弥陀如来像の作者として、今引タダの形として、作品は絵画に継がれていない。その作品は、三兵衛に現れた。浄土寺の金剛力。阿弥陀如来像の作者として、今引

快慶

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社

仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。無事にお盆のお勤めが終わり、そして夏の高校野球も終わりました。今年も色んなドラマが生まれましたが、熱く真剣に取り組み姿は感動を覚えます。私も負けずに頑張ろうと思います。以前にもお伝えしましたが、カナダのトロント大学と、アメリカのカリフォルニア大学サンタバーバラ校より招聘を受けまして、雅楽のレクチャーデモンストレーションに行かせてもらえることになりました。九月二十四日より十月二日の期間です。その間の月参りや急な対応は前住職にお願いしております。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。
(釋法道)

浄覚寺の公式LINEにぜひご登録ください。
デジタルで「じゅこう」をお届けします。



10月

十月二十五日(土) 十四時・十九時
永代経法要 法話 義本弘導先生

日時・九月二十三日(祝) 十四時より
行事・秋季彼岸会
場所・長原浄覚寺
法話・赤井智顕先生(兵庫)
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)
ぜひ皆さま
ご参詣ください

行事案内

